

行政サテライト機能の再編成

問 平成27年6月に総合支所の設置を先送りして、専門職員を配置する「基地」を置くとの説明があった。設置の意義、地域住民への効果や有益性をどのように考えているのか。

答 将来の長崎市を見据えた、支所、行政センター、本庁の機能の再編成においては、現在の支所や行政センターを身近な手続きや相談ができる「新たな支所」として整備し、また、一定の規模を持ち、仕事の決定権を有する「総合支所」を市内に複数箇所、設置することとしている。

この再編成は、市役所のしくみを大きく変えようとするものであり、機能や体制の設計に相当な時間を要することから、総合支所の設置前に「基地」を設ける考えだったが、総合支所の形がある程度見えてきたことから、「基地」は置かず、早期に再編成の具体案をまとめ「総合支所」を整備することとしている。この再編成が市民サービスに支障をきたさないようしっかりと組み立てていきたい。

グラブスカイロードの有効活用

問 市民や多くの観光客が利用している斜行エレベーターは、年間約1千万円の維持管理費がかかる。ゴンドラから見える壁に、企業等の広告を載せて収入を得るなどの考えはないか。



▲グラブスカイロード

答 広告収入については、市有財産の活用や新たな財源の確保といった観点から有効な手段であり、また、利用者に対して、一定の広告効果が見込めることから、今後、道路占用許可や、周辺の景観との調和の関係、広告を出す場所や大きさ、内容などを整理し、実施に向けて取り組んでいきたい。

市民クラブ

放課後児童クラブ支援員と民間保育所保育士の待遇改善

問 放課後児童クラブ支援員の処遇改善のため、市は積極的な関与と指導が必要ではないか。また、この1年で保育士の処遇改善にどう取り組んだのか。

答 放課後児童クラブ支援員については、国の補助メニューに職員の賃金改善等への補助が追加されたことから、これを踏まえて、市の補助制度を改正することで処遇改善につながると考えている。市としては、補助金の具体的な内容について、クラブの事業者に説明し、理解を深めていただくよう努める。



民間保育所に勤務する保育士については、新たに創設された施設型給付の処遇改善加算において充実が図られている。賃金や正規・非正規などの雇用形態は、各施設の雇用契約に基づくものではあるが、保育所等の関係者とともに処遇改善につながる取り組みを検討したい。

水道管破損事故と市民生活への影響

問 平成27年11月20日に発生した事故の原因と、今後の更新計画及び野母崎宿線と長崎外環状線の道路整備状況もあわせて伺いたい。

答 破損した管は、昭和40年代に布設しており、破損の原因は老朽化に伴う自然破損と考えている。また、耐用年数とされる布設後40年を経過した管は、昭和43年度から計画的に布設替えを行っているが、今回の事故や緊急点検結果などを踏まえ、優先順位の見直しを行うなど、再発防止に努めたい。



▲水道管復旧工事の様子

また、長崎県において、野母崎宿線は、順次整備が進められており、長崎外環状線の新戸町から江川町は、平成28年度当初予算案の新規事業予定箇所とすることが発表され、事業着手に向けて大きく前進した。今後とも、整備促進に向け、働きかけていきたい。

被爆二世の数及び生活と健康についての実態調査

問 独自の援護対策を行うために、被爆二世の実態を把握し、それを踏まえた対策を検討すべきと考えるが見解を伺いたい。

答 援護対策については、被爆者対策と同様に基本的に国の責任においてなされるべきと考えている。

また、実態調査についても、被爆二世は全国的に居住していることや、定義や認定の法的な枠組みがないなど様々な課題があるため、1自治体で行うのではなく、国においてなされるべきと考えている。

しかし、実態調査は援護対策を行うための基本的なデータとして必要であると考えており、被爆二世団体の皆様との定期的な意見交換もしながら、国に対して要望を行っていききたい。

